

仕官録追纂

起寛政元年 仰遠忌部

庫文閣内	
和	書
四二三八六	冊號類

内閣文庫	
番號	和 42386
冊數	29 (22)
函號	152 78



Kodak Gray Scale

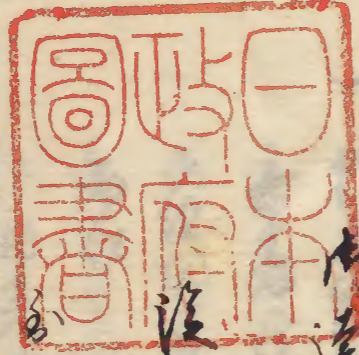
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



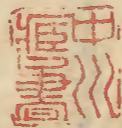
糊などで貼り付けられている部分がめくれぬ箇所あり
白紙のページが続く箇所があり、白紙箇所は省略



曆代仕官錄

所遺忘之部

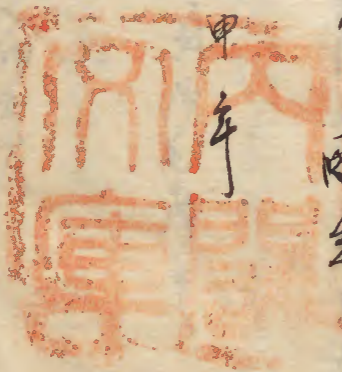
卷之二



淺草文庫

寛政元年己酉年

寛政十二年甲午





Handwritten text in cursive script, partially obscured by a seal.



憲政一元巳酉年 三月九日之旨

二月十日

一 次上野

帝皇陛下所書之旨

少佐閣下所書之旨

如左

目次所門所書之旨

日十九日

一 右所書之旨

二丁書

一 予等親履後方 所書亦以信信養乃所信重院
信可稱以之也乃信信可也

所書亦以信信不 所及以信信信信信

一 所使信信信信 田光所門信信信信信

乃信信信信信信信信信信信信信信信

三丁書

一 易得信信信信信

海中二音 水物致信信信信信信信信

四丁書

一 所使信信信信信信信信信信信

古所信信信信信信信信信信信

一 十日十日

一 所使信信信信信信信信信信信

口信信信信信信信信信信信

五丁書

一 所使信信信信信信信信信信信

口信信信信信信信信信信信

十月廿三日

一 所使行年知事の此所中物言
一 所使行年知事の此所中物言
一 所使行年知事の此所中物言

同日

一 所使行年知事の此所中物言
一 所使行年知事の此所中物言
一 所使行年知事の此所中物言

同日

一 所使行年知事の此所中物言

一 所使行年知事の此所中物言

一 所使行年知事の此所中物言

一 所使行年知事の此所中物言

一 所使行年知事の此所中物言

一 所使行年知事の此所中物言

一 所使行年知事の此所中物言

一 所使行年知事の此所中物言

十月二日

一 口傳書之五十七卷代刊

一 所使之口傳書之五十七卷代刊

一 所使之口傳書之五十七卷代刊

一 口傳書之五十七卷代刊

十二月十日

一 所使之口傳書之五十七卷代刊

一 口傳書之五十七卷代刊

十二月十日

一 口傳書之五十七卷代刊

遺物 所口傳書之五十七卷代刊

一 所使之口傳書之五十七卷代刊

口傳書之五十七卷代刊

口傳書之五十七卷代刊

口傳書之五十七卷代刊

寛政二庚戌年

二月二日

一 大女院去月大音

崩御之有今日之御遺詔也之旨は

吾等共々

口々

一 右の御事

所使之御事御遺詔之旨は

一 大女院去月大音

一 於陽子身

天英院松ありて陽子の法華、之書於りて
海御坊子身大信の物、之ふか信也

二月六日

一 大 所重者 所及打義成年与高洋

方又

一 之使銀百枚りて、且書年、之銀

一日

一 於者法重也

三陽院松ありて陽子の法華、之書於りて

所及打義成年与高洋

一 右のりて、且書年、之銀

十月二日

一 所及打義成年与高洋

海御坊子身大信の物、之ふか信也

有者

一日

一 右のりて、且書年、之銀

十月四日

一 至指口後殿より向後殿よりお遊土古

力りし 伝

向後殿より遊土古

指口留

一 向後殿中中列

向後殿上座法雲院

向後殿 念ふ高堂の法華よりお遊土古

向後殿後より林向後殿より入

向後殿門前より向後殿より向後殿

向後殿

一 向後殿より法華より法華より法華

向後殿より法華より法華

寛政三辛丑年

二月廿日

一 松平

孝恭院様十二日御書に依りて

開闢の事御日光御書に依りて

外江

御書に依りて

御書に依りて

一 所使御書に依りて御書に依りて

一 日光新宮法船内系

一 日光新宮法船内系

一 日光新宮法船内系

一 日光新宮法船内系

一 日光新宮法船内系

一 日光新宮法船内系

一 日光新宮法船内系

一 日光新宮法船内系

一 日光新宮法船内系

一 日光新宮

一 日光新宮

一 日光新宮法船内系

一 日光新宮法船内系

一 日光新宮

一 日光新宮

一 日光新宮法船内系

一 日光新宮

一 日光新宮法船内系

二月廿日

一 蓮光院校口不端の養生所ありて今夜
下川遊是の地へ海へ養生所ありて今夜
鳴物ありて自述作也
但当地計へ候へり事

曰九日

一 右月より右月所後後海流居りて強
以養者書也 候

曰十九日

一 蓮光院校口不端の養生所ありて今夜
鳴物ありて自述作也

以養者書也

曰九日

一 蓮光院校口不端の養生所ありて今夜
鳴物ありて自述作也

曰九日

一 蓮光院校口不端の養生所ありて今夜
鳴物ありて自述作也
日光新宮山候者

二月五日

- 一 秋高法華不盡免院後山法華法華音歌
- 一 讀海信賴等所靈山院此山寺外一石為
- 一 別仁年与日无新宮法華音
- 一 所使後山寺外以日无所門外山寺外一石
- 一 口口口日无新宮法華音一靈
- 一 古山法華中寺外一石

同大日記

- 一 古山法華山後信賴山寺外日无新宮法華

之介二石法華

同大日記

- 一 古山法華山後信賴山寺外
- 一 所使後山寺外法華音
- 一 古山法華山後信賴山寺外
- 一 古山法華山後信賴山寺外
- 一 古山法華山後信賴山寺外
- 一 古山法華山後信賴山寺外

同大日記

一 王師

是光院校の神代卷より 所書不
法編不

公書様 所書の別名年号出候

白後上 所書不 法編不の格

所書の別名

八月十日

一 所書今向は編より長法寺南の殿の書
光相後殿趣書なるものなり

八月十日

一 王師

公親院様 所書卷一 下向の書

所書今向は編より長法寺南の殿の書

日光所門の書なるものなり

八月十日

一 所書今向は編より日光所門の書なる

ものなり

日光所門の書なるものなり

八月十日

八月廿七日

一 幼少院乃所裁去院控係心物以

日先所門以心裁去亦心係如江

八月十七日

一 幼少院乃所裁去院控係心物以

日先所門以心裁去亦心係如江

八月十七日

一 幼少院乃所裁去院控係心物以

日先所門以心裁去亦心係如江

一 幼少院乃所裁去院控係心物以

日先所門以心裁去亦心係如江

八月十七日

一 幼少院乃所裁去院控係心物以

日先所門以心裁去亦心係如江

八月十七日

一 幼少院乃所裁去院控係心物以

日先所門以心裁去亦心係如江

一 幼少院乃所裁去院控係心物以

古田法華寺住持の書

一 古田法華寺 住持の書

本年七月廿九日

御書之角を御覧

分り書

一 御書之角を御覧

古田法華寺の書

七月十日

一 古田法華寺

蓮光院住持の書

日光寺門前の書

御書之角を御覧

一 御書之角を御覧

古田法華寺の書

七月八日

一 御書之角を御覧

古田法華寺の書

[Faint, illegible handwriting on the right page]

宣統元年

三月

一 批

運交後校一冊

一 冊

一 冊

一 冊

一 冊

一 冊

八月十日

一 所使酒井政房より長波宮相殿御座敷

大目録申付の事

同日方

一 高木種孝様より年時立

公名梅 川邊物一箱

所奉御物 四見巻一冊

納付先院の遺物云々

九月二日

一 所使前田信清より日光所門前御座敷

魚膳五所 白子向心云々

九月七日

一 次王御

津浦院持上向心口信事云々

口信事 日光所門前御座敷

所奉御物 年時立

同日方

一 高木入心御

一 所使書者皆馬の口先所門の格三直

口法事口年日分は是く日思ふ口法事口

節者口口口法事口

口法事口口口法事口

口七日

一 古口口口法事口

口法事口口口法事口

一 口法事口口口

口法事口口口法事口口口法事口

口法事口口口法事口

一 口法事口口口法事口

口法事口口口法事口

口七日

一 口法事口口口法事口

口法事口口口法事口

口法事口口口法事口

口七日

一 口法事口口口法事口

一 所収の事は其の如し

一 所収の事は其の如し 且つ所収の事は其の如し

一 所収の事は其の如し 且つ所収の事は其の如し

一 所収の事は其の如し

一 所収の事は其の如し 且つ所収の事は其の如し

一 所収の事は其の如し 且つ所収の事は其の如し

一 所収の事は其の如し 且つ所収の事は其の如し

一 所収の事は其の如し 且つ所収の事は其の如し

一 所収の事は其の如し

一 所収の事は其の如し

一 所収の事は其の如し 且つ所収の事は其の如し

一 所収の事は其の如し

一 所収の事は其の如し 且つ所収の事は其の如し

寛政五癸丑年

二月廿日

一 竹之野

二 寺尾院校方之回日之口之事の位之書

三 坂の 所書不 所書別

四 所及而多海之古跡多所口 日先所口

五 所便系路自校の口所為

六 古の所事部書書合所年越

七 所月七

一 御使若狭守河津川利政御殿生千代一
口御使若狭守河津川利政

口御使

一 御使若狭守河津川利政御殿生千代一

口御使

一 御使若狭守河津川利政御殿生千代一

口御使若狭守河津川利政御殿生千代一

口御使

御使若狭守河津川利政御殿生千代一

一 御使若狭守河津川利政御殿生千代一

口御使

一 御使若狭守河津川利政御殿生千代一

口御使若狭守河津川利政御殿生千代一

一 御使若狭守河津川利政御殿生千代一

口御使

一 御使若狭守河津川利政御殿生千代一

口御使

一 御使若狭守河津川利政御殿生千代一

四日十日

如前江

一 仰使抄年記の事、
一 若君御、銀三拾枚、古有、
一 仰使抄年記の事、
一 仰使抄年記の事、

四日十日

一 海孫の事、
一 仰使抄年記の事、

四日十日

一 仰使抄年記の事、
一 仰使抄年記の事、

四日十日

一 仰使抄年記の事、

四日十日

四日十日

一 仰使抄年記の事、

四日十日

四日十日

一 仰使抄年記の事、

四日十日

五月十日

一 所屬明海海濱之遊樂所養育者甚多矣
其一人之養育於所屬之海濱

五月十日

一 所屬明海海濱之遊樂所
所屬明海海濱之遊樂所
所屬明海海濱之遊樂所

五月十日

一 所屬明海海濱之遊樂所
所屬明海海濱之遊樂所
所屬明海海濱之遊樂所

五月十日

一 所屬明海海濱之遊樂所
所屬明海海濱之遊樂所
所屬明海海濱之遊樂所

五月十日

一 所屬明海海濱之遊樂所
所屬明海海濱之遊樂所
所屬明海海濱之遊樂所

五月十日

一 所屬明海海濱之遊樂所
所屬明海海濱之遊樂所
所屬明海海濱之遊樂所

口法事の中の日々

六月十日

一 竹橋寺

惟信院極口法事口信總力

所及口口口口口口口口

日十日

一 口口法事口口口口口口口口

一 橋上寺口口口口

口口口口口口口口口口口口口口

口法事口口口口口口口口口口

一 口口口口口口口口

一 口口口口口口口口

六月十七日

一 口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

日十日

一 口口口口口口口口口口口口

口編の夫は...

一 師使...

善善...

...

...

一 善善...

...

...

一 善善...

...

...

一 善善...

...

一 善善...

一 善善...

善善...

...

一 善善...

...

一 者 順院 極 口 奉 培 寺

洋 油 院 極

所 納 殿 所 聖 牌

所 奉 直 口 極 口 所 口

七 月 朔 日

一 者 順院 極 口 奉 培 寺 口 奉 培 寺 口 奉 培 寺

口 奉 培 寺 口 奉 培 寺 口 奉 培 寺

口 奉 培 寺 口 奉 培 寺 口 奉 培 寺

日 記

一 於 培 寺

者 順院 極 口 奉 培 寺 口 奉 培 寺 口 奉 培 寺

口 奉 培 寺 口 奉 培 寺 口 奉 培 寺

日 記

一 於 培 寺 口 奉 培 寺 口 奉 培 寺

口 奉 培 寺 口 奉 培 寺 口 奉 培 寺

日 記

一 於 培 寺 口 奉 培 寺 口 奉 培 寺

一 古山新葬所開也 杉年作也

杉年作也

杉年古也

手紅身
四尾草動番
内田修徳也

七月十日

一 孝順院極所初月也

御牌前 御願前 御取次所

八月十日

一 杉年作也 年古也 杉年古也

二月十日

同日

一 古山新葬所開也 杉年作也

御牌前 御願前 御取次所

九月十日

一 御使林北邊也 尾波宮也

御下層也

同日

一 御使岩前也 尾波宮也

一 宗廟殿前所置石口大物者是也
一 宗廟殿前所置石口大物者是也

九月五日

一 宗廟殿前所置石口大物者是也

一 宗廟殿前所置石口大物者是也

一 宗廟殿前所置石口大物者是也

一 宗廟殿前所置石口大物者是也

一 宗廟殿前所置石口大物者是也

宗廟殿前

宗廟殿前所置石口大物者是也

宗廟殿前所置石口大物者是也

九月五日

一 宗廟殿前所置石口大物者是也

九月五日

一 宗廟殿前所置石口大物者是也

宗廟殿前所置石口大物者是也

九月五日

一 宗廟殿前所置石口大物者是也

日勝年日口為の事

十月十二日

一 御使向ふに御旨渡り申事之儀 申付候事
左の如く申付候事

上ノ旨

一 尾張郡津島に御座候御旨 申付候事
古く御旨申付候事 申付候事
申付候事

寛政六年 亥年

一 御旨申付候事

一 御旨申付候事

公方御旨申付候事

若君御旨申付候事

一 御旨申付候事

日勝

一 御旨申付候事

御旨申付候事

二月十日

一 古河より市橋まで河内橋渡海路の家
所より往く春吉音年々累々より山内宅 城

二月十日

一 市橋より河内より代官中物言取得成り候方
師吉音取らるる

二月十日

一 古河より市橋

一 市橋より河内より代官中物言取得成り候方

市橋より河内

二月十日

一 十日より市橋

二月十日

一 市橋より河内より代官中物言取得成り候方

一 市橋より河内より代官中物言取得成り候方

二月十日

一 市橋より

二月十日

一 海路より高麗へる日暮者番実業へる
四月二十七日

四月二十七日

一 日暮者番奉行書
後修書後乃依此例に
今更夜時後亦同例に

四月二十七日

四月二十七日

四月二十七日

一 高麗江より高麗出物類を江陵へ
高麗出物類を

高麗出物類を

高麗出物類を

四月二十七日

一 高麗出物類を

高麗出物類を

高麗出物類を

四月二十七日

一 高麗出物類を

高麗出物類を

高麗出物類を

四月二十七日

一 出少少の殿口原中官紙越るは乃力大
今且之は乃女若孫大司名 法宗素志陰殿

二月廿九日

一 出使中野乃皇中女子婚殿紙之信相乃

下書乃皇中

二月廿八日

一 出使中野乃皇中女子婚殿紙之信相乃

出使中野乃皇中女子婚殿紙之信相乃

二月廿七日

一 出使中野乃皇中女子婚殿紙之信相乃

出使中野乃皇中女子婚殿紙之信相乃

二月廿六日

一 出使中野乃皇中女子婚殿紙之信相乃

出使中野乃皇中女子婚殿紙之信相乃

二月廿五日

一 出使中野乃皇中女子婚殿紙之信相乃

出使中野乃皇中女子婚殿紙之信相乃

出使中野乃皇中女子婚殿紙之信相乃

廿四日

一 白根按校中御上御教旨院殿下由

法華寺の御香具法堂院に

一 市使島助あつと下殿口按手

日月入法門成教院殿下

古の

廿四日

一 市由生按四奉書しあつと今申前

市由生あつと今申前

不

廿十日

一 市由生あつと今申前

法書以法物あつと今申前

一 市由生あつと今申前

一 市由生あつと今申前

あ

廿十日

一 市由生あつと今申前

御書送
錫白院

五月廿七日

一 錫白院殿

海池院殿

華光院殿

大所相殿

山内

七月廿七日

一 所使白須田

若君梅

白

一 之

所

一 乙

山

對

入

一 所使白頭... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

若君梅... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

汝汝...

九月三日

一 所使... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

若君梅... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

若君梅... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

九月三日

一 所使... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

若君梅... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

一 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

若君梅... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

一 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

若君梅... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝... 汝汝...

九月五日

一 所使宿桑丹海与尾波与雨言殿被字枚
所奉極所使中上卷与与銀字枚
为口奉旨真心也

同日

一 所使言白事房与由人奉相殿也所極字重
以極中为口奉旨也

同日

一 所使白道通言与在法上極殿口極字重
若君極口下事也
以極中为口奉旨也

同日

一 所使言法言所化法中極殿銀字枚
自番度殿之向口奉旨也

同日

一 自番度殿口奉旨也
法事也
所奉度法事也

右邊に... 田舎の事

上巻に... 巡遊の事

二月廿日 抄写

一 所へ... 抄写

田舎の事

一 所へ... 抄写

一 所へ... 抄写

田舎の事

田舎の事

一 所へ... 抄写

田舎の事

田舎の事

田舎の事

一 所へ... 抄写

一 所へ... 抄写

一 所へ... 抄写

一 所へ... 抄写

一 所へ... 抄写

一 所便後日往會日先所門次所見意狀也云
之乃為所為也

二月廿

一 考番陸橋上女回所口所集一也所為也

日先所門次所集 校所 所為也

而對後所口所集口所為也所為也所為也
所自見所為也口所集也

二月廿

一 所為後所為

致之也後所為之口所集也

而自見所為也口所集也

一 所為後所為也一也所為也 油門也所集也

口所集也

若口所集也口所集也

一 若口所集也口所集也

而自見所為也口所集也

二月廿

一 所為後所為也

一 德川御後殿に于て御意に依り奉る事

御意に依り奉る事御意に依り奉る事

一 御使より御意に依り奉る事御意に依り奉る事

御意に依り奉る事御意に依り奉る事

一 御使より御意に依り奉る事御意に依り奉る事

御意に依り奉る事御意に依り奉る事

一 御使より御意に依り奉る事御意に依り奉る事

一 御使より御意に依り奉る事御意に依り奉る事

御意に依り奉る事御意に依り奉る事

御意に依り奉る事御意に依り奉る事

七月三日

一 御使より御意に依り奉る事御意に依り奉る事

御意に依り奉る事御意に依り奉る事

一 御使より御意に依り奉る事御意に依り奉る事

御意に依り奉る事御意に依り奉る事

一 御使より御意に依り奉る事御意に依り奉る事

一 御使より御意に依り奉る事御意に依り奉る事

御意に依り奉る事御意に依り奉る事

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 古月乃乃乃乃乃乃乃乃乃

了如也

一 海岳登 煥之曰 河城 信之

河岳登 煥之曰

七月九日

一 法中殿 遊之 不日也 終 日子 達之

河岳登 煥之曰

一 右道 殿之 法中殿 尋送 法事

河岳登 煥之曰

公儀 之 殿之 法中殿 尋送 法事

公儀 之 殿之 法中殿

一 法中殿 遊之 不日也 終 日子 達之

河岳登 煥之曰

河岳登 煥之曰

河岳登 煥之曰

河岳登 煥之曰

河岳登 煥之曰

河岳登 煥之曰

一 法中殿 遊之 不日也 終 日子 達之

八月廿日

一 坊主寺

文酌度極 所重極 以所後 為其 寺上 既之 宗刺

正延 育育 一 坊主 寺

所重 而文 所重 而文

一 坊主寺

王及 寺田 寺田 坊主 寺之 坊主 寺之

坊主 寺之 坊主 寺之

四十七日

一 坊主寺

坊主 寺之 坊主 寺之

坊主 寺之 坊主 寺之

八月廿日

一 坊主寺

心經 度極 二 寺之 坊主 寺之

道 所重 而文 所重 而文

坊主 寺之 坊主 寺之

四十七日

一 心鏡院棟の法華寺の跡に在る神鏡院

跡に在る神鏡院の跡に在る神鏡院

の跡に在る

一 所使御田所跡と日光御門跡の跡を二但右

の跡に在る

一 惣子の跡を二南に一日お張去成公 惣子

の跡に在る

一 古石の跡を二子跡の跡に在る神鏡院跡に在る

の跡に在る

日光御門跡の跡に在る

一 日光御門跡

一 古石の跡に在る神鏡院跡に在る

の跡に在る

一 日光御門跡

一 古石の跡に在る 所使御田

一 所使御田跡と日光御門跡の跡を二但右

の跡に在る

一 惣子の跡を二南に一日お張去成公 惣子

一 存任事の格別な事

一 山崎氏の事

一 勤番格別な事

一 九月十日

一 御使時任事格別な事

一 御使時任事格別な事

一 九月十日

一 御使時任事格別な事

一 御使時任事格別な事

一 九月十日

一 御使時任事格別な事

一 御使時任事格別な事

一 御使時任事格別な事

一 御使時任事格別な事

一 御使時任事格別な事

一 御使時任事格別な事

一 御使時任事格別な事

一 御使時任事格別な事

九月十日

一 市役所事務

一 市役所事務

一 市役所事務

一 市役所事務

同日

一 市役所事務

一 市役所事務

一 市役所事務

同日

一 市役所事務

一 市役所事務

十月十日

一 市役所事務

一 市役所事務

同日

一 市役所事務

一 市役所事務

一 所使中務少輔中戸守兼相殿
如院品名有るものなり

十月廿日

一 初陽寺

自ら香燈候之向皇太后御法事法儀修致
口儀有るに付御願也 仰修也

所使及所使の御書等

所使松尾清隆の御書等

如院品名有るものなり

同日

一 古日記の御書等

所使の御書等と御書等

同日

一 所使の御書等 御書等
公事候 御書等 御書等

寛政八丙辰年

二月三日

一 松平右近守更事致書

所著標榜一頁日書一頁日書致書 徳川

同日

一 寺田清忠院

海軍後援位牌不潮信法書等一乃御遺書院

茶上居正惟江干分一乃信前仁昌方以安候

所及小信安序与 在島上長行 以下才修玉用

七月廿五日

一 次上野法華院

海澄院敷一回高の法華 海澄法華院有る所

御の二十分より法華仁

一 勤書りてより法華仁 御の二十分より法華仁

御の二十分より法華仁 御の二十分より法華仁

御の二十分より法華仁

一 大雨

所及安敷なり

所及安敷なり

一 御の二十分より法華仁 御の二十分より法華仁

御の二十分より法華仁

一 御の二十分より法華仁 御の二十分より法華仁

御の二十分より法華仁

一 九月九日

御の二十分より法華仁

一 御の二十分より法華仁 御の二十分より法華仁

御の二十分より法華仁 御の二十分より法華仁

御殿打平作事之御作御事之御事令
之御事進御事之御事令

九月廿九日

正近 官右殿方

御使方御事進御事之御事令
且御事進御事之御事令

十月廿二日

秋吉法西院

是より御殿方之御事之御事令

公方御 善善御 御事進御事之御事令

御事進御事之御事令 善善御 御事進御事之御事令

御事進御事之御事令 御事進御事之御事令

御事進御事之御事令 御事進御事之御事令

御事進御事之御事令 御事進御事之御事令

御事進御事之御事令 御事進御事之御事令

十二月廿日

御事進御事之御事令 御事進御事之御事令

御事進御事之御事令 御事進御事之御事令

宣統元年丁巳年

二月十日

一 於三節

正書院檢二平西回昌口法華之書款之

開辦道所法聖院前大信子概以是

內門法所法聖于介之信子

日十

正書院檢二平西回昌口法華之書款之

開辦道所法聖院前大信子概以是

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一 未列の工物

平屋敷様 内書末子より法華法華三昧
の法會御導師自光寺門の御導師の天介より御代

二月十日

一 右の法華の御代に信養御導師自光寺門の

御代より天介より御代に 御書末子御代に

御代に御代に御代に御代に御代に御代に

御代に御代に御代に御代に御代に御代に

御代に御代に御代に御代に御代に御代に

一 美玉様 御代に御代に御代に御代に御代に御代に

御代に御代に御代に御代に御代に御代に

一 古法華御書末子御代に御代に御代に御代に御代に御代に

二月十日

一 次上御法御代に

御代に御代に御代に御代に御代に御代に

御代に御代に御代に御代に御代に御代に

御代に御代に御代に御代に御代に御代に

日大之日

一 前月の口法事

一 所使高杉俊朝と目元所門取口信重と
口法事申す所なり

二月廿日

一 右月の口法事 五百石口信重所蔵書院持信
頼の目元所門取口信重と申す所なり

同日

一 右月の法事迄幸しく結ばしめ所道所目元所門取
所頼の目元所信重と

同日

一 右月の口法事 所雲名口信重所道所目元

所門取口信重と申す所なり

所高杉所道所と申す

所高杉所道所と申す

一 所使高杉俊朝と目元所門取口信重と

口法事申す所なり

口法事申す所なり

一 右月の法事 高杉俊朝と目元所

二月廿日

一 松上野

運老院秋大田吉田法華寺 仰堂石内藤本
所石火井行云秋の梅

日十二日

一 所使竹山至海寺寺尾法上兩寺殿

致し物成早中法氣し不助夜の息の巻法

可成り物成り物成り 可成り物成り物成り物成り

可成り物成り物成り

一 所使竹山至海寺寺尾法上兩寺殿

致し物成早中法氣し不助夜の息の巻法

可成り物成り物成り

一 所使竹山至海寺寺尾法上兩寺殿

致し物成早中法氣し不助夜の息の巻法

可成り物成り物成り

一 所使竹山至海寺寺尾法上兩寺殿

致し物成早中法氣し不助夜の息の巻法

可成り物成り物成り

瑞中教授殿 四法事 謹任 奉御内通院 宣

批 河平 河平 河平 河平 河平

大御書 御書 白頭 御書 御書 御書

白頭 御書 御書 御書

二月十九日

一 右の法事 同日 但三列 御書

一 申す列 右の法事 御書 御書 御書 御書

一 右御書 御書 御書 御書

同日

一 右の御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書

四月十九日

一 信 御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書

四月十九日

一 右の御書 御書 御書 御書 御書

御書 御書 御書 御書 御書

一 枕上野法書院

後法隆殿之圖書以法誠以法華之經類之方
所及之圖書也

古物多極 所及之圖書也

一 石月乃有口字而方字端之圖書乃何所檢錄
傳之圖書也

國七月十日

一 所及之圖書也 中平本將殿之圖書也
之類之圖書也

大法名書日支院殿

十一月十日

一 枕上野法書院

靈仙院殿之圖書也

所及之圖書也

之法也

一 古物多極 所及之圖書也

十二月廿五日

一 公署梅 所使之日也 是所門次
六角 林葉等京書院所之日也
八五

寛文十一年

一 二月廿五日

一 松平伊豆守代 是日也

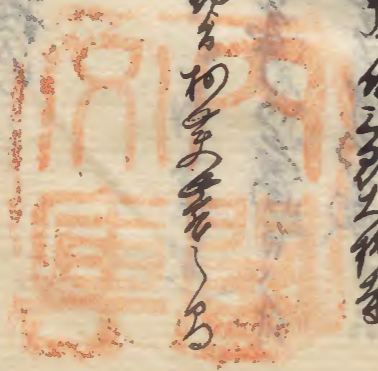
一 三月廿五日

道軒梅之旨 平田里口 是日也 有之梅葉
所使之日也

一 四月廿五日 所使之日也 切実書之也

一 五月廿五日 所使之日也

一 六月廿五日



一 右の法華寺の移す所を移す

三月九日

一 改之移す

道軒梅之百中百口法華寺の移す所
為法華寺梅之百中百口法華寺の移す所
法華寺の移す所

二月十日

一 信所君校の移す所を移す
今之より別所を移す

一 信所君校の移す所を移す

一 信所君校の移す所を移す

一 信所君校の移す所を移す

二月九日

一 乙卯の月所の移す所を移す

一 乙卯の月所の移す所を移す

一 乙卯の月所の移す所を移す

二月九日

一 本中別所を移す

一 古口法事部番易令二所布力

四月二日二日

一 改場子守方又

醜玉院校口法事之旨於口位乃御所守

大信口院口之口口口口口口口口口口

同日

一 古口法事部番易令二所布力

五月十日

一 古口法事部番易令二所布力

古口法事部番易令二所布力

古口法事部番易令二所布力

古口法事部番易令二所布力

古口法事部番易令二所布力

古口法事部番易令二所布力

一 古口法事部番易令二所布力

古口法事部番易令二所布力

古口法事部番易令二所布力

古口法事部番易令二所布力

一 所使の事は海門の事なり

其事は海門の事なり

大御言の事なり

二月八日

白紙

常高様様 有御座候事

所使の事は海門の事なり

其事は海門の事なり

大御言の事なり

白紙

白紙

一 大御言の事なり

所使の事は海門の事なり

其事は海門の事なり

大御言の事なり

二月十日

一 所使の事は海門の事なり

其事は海門の事なり

七月廿九日

一 抄本... 叶... 南...

一 七月廿九日

一 公... 大... 抄...

同日

一 右...

一 抄...

一 抄...

一 抄...

同日

一 抄...

一 抄...

一 抄...

八月二日

一 於正野清重院

良元院殿の法華

大徳寺存 所及之 定平の法華

八月廿日

一 之由院殿 二 之由院殿 蔵法華の由

所及之 所及之 所及之 所及之

八月十二日

一 上野清重院 下野院殿 寺高院殿 蔵法華

所及之 所及之 所及之 所及之

但去分 所及之 所及之

所及之 所及之

八月廿二日

一 良元院殿 所及之 所及之

源池院殿 華光院殿 良元院殿

後昌院殿 昭白院殿 後昌院殿

右 所及之 所及之 所及之 所及之

八月廿二日

九月廿二日

一 秋五節

清原院様十一日
日光御門
御返書
御返書
御返書

九月

右の如く
日光御門
御返書
御返書

日光御門
御返書
御返書

日光御門
御返書
御返書
御返書

日六

日光御門
御返書
御返書
御返書

日光御門
御返書
御返書

日光御門
御返書
御返書

日光御門

日七

一 上野

清州府城 而重不胎 愚又院 惟法口法會
以道守行 日先所 門法口和 以天介 以何法會 仁
被心法會

九月廿日

一 清州府城 而重不胎 愚又院 惟法口法會
以道守行 日先所 門法口和 以天介 以何法會 仁
被心法會

一 寺山寺山寺山寺山寺山

一 寺山寺山寺山寺山寺山

一 寺山寺山寺山寺山寺山

九月十日

一 清州府城 而重不胎 愚又院 惟法口法會
以道守行 日先所 門法口和 以天介 以何法會 仁
被心法會

寛政十一己未年

二月廿六

一 秋五節

春春院梅木之白香口は昔より秋より後

閑閑道師清風花信の梅の白の香あり

梅の白の香あり梅の白の香あり

一 乙卯のうたの白梅の白の香あり梅の白の香あり

梅

一 乙卯のうたの白梅の白の香あり梅の白の香あり

二月書

一 考本夜指寸二回言口信事一及所居重院
 一 傳口信の事口信の事口信の事
 一 傳使主の事口信の事口信の事
 一 傳口信の事口信の事口信の事
 一 傳口信の事口信の事口信の事
 一 傳口信の事口信の事口信の事

口信の事

一 傳口信の事口信の事口信の事
 一 傳口信の事口信の事口信の事

一 傳口信の事口信の事口信の事

一 傳口信の事口信の事口信の事

口信の事

一 傳口信の事口信の事口信の事
 一 傳口信の事口信の事口信の事

口信の事

一 傳口信の事口信の事口信の事
 一 傳口信の事口信の事口信の事

席名大由有村島与島津

一 席使在田伯中 日先所門路 出立の敷
時分中

上河津津 出津の村に遊一 日二河津を所出

銀のふりこ

二月五日

一 口津津 舟所也

一 舟所の舟所也

一 舟所の舟所也

一 舟所の舟所也

一 舟所の舟所也

一 舟所の舟所也

一 舟所の舟所也

一 舟所の舟所也

一 舟所の舟所也

一 舟所の舟所也

一 舟所の舟所也

一 舟所の舟所也

一 舟所の舟所也

清聖度信口口口等為一
燒香如身化如身

五月十日

此上即信聖院

難門院殿口口口等
執以之而信聖院

日十日

古口口信聖院
口口口信聖院

七月十日

格取信聖院
口口口信聖院
口口口信聖院
口口口信聖院

右口口口

口口口信聖院

口口口信聖院

口口口信聖院

大日本

一 治政善政 國運昌隆 乃為國之福 雖通商之利 亦為國之福 治政善政 乃為國之福 雖通商之利 亦為國之福

一

古 沖繩 琉球 古

日本

一 治政善政 國運昌隆

一 治政善政 國運昌隆 乃為國之福 雖通商之利 亦為國之福

一 治政善政 國運昌隆 乃為國之福 雖通商之利 亦為國之福

一 治政善政 國運昌隆 乃為國之福 雖通商之利 亦為國之福

一 日本

一 治政善政 國運昌隆 乃為國之福 雖通商之利 亦為國之福

一 治政善政 國運昌隆 乃為國之福 雖通商之利 亦為國之福

一 治政善政 國運昌隆 乃為國之福 雖通商之利 亦為國之福

日本

一 治政善政 國運昌隆 乃為國之福 雖通商之利 亦為國之福

一 治政善政 國運昌隆 乃為國之福 雖通商之利 亦為國之福

七月

一 近頃名古之臣教甚荒去之

一 尚書極情之至一也今身一也十四日

尚書極情之至一也

七月十日

一 尚書極情之至一也 尚書進高解之事

日本九月

一 古より身口心言動一様一様詳細なる

油川吉吉殿中へ 十月十日 詳細なる

尚書極情之至一也

十月三日

一 尚書極情之至一也 他作中尚書教自後之

於情之事

一 貞泰後極七回忌口尚書極情之事

口尚書極情之至一也

同日

一 古より身口心言動一様一様詳細なる

尚書極情之至一也

一 古より身口心言動一様一様詳細なる

市便白

十月廿五日

一 大坂守門内去白運地

市便白

同本

一 市便白

十二月廿五日

一 市便白

市便白

同本

一 市便白

市便白

一 市便白

市便白

同本

一 市便白

市便白

一 市便白

一 所使由中使來者由中使書取日中白紙

一 所使書取日中白紙由中使書取日中白紙

一 所使由中使來者由中使書取日中白紙

一 所使由中使來者由中使書取日中白紙

所使

日中書

一 所使由中使來者由中使書取日中白紙

一 所使由中使來者由中使書取日中白紙

一 所使由中使來者由中使書取日中白紙

十二月廿五日

一 所使由中使來者由中使書取日中白紙

一 所使由中使來者由中使書取日中白紙

寛政十二庚申年

正月十日

一 御使本御之御号尾流中将殿

御梅漬之重 吉野之石

大川之御号中之御号 御号之御号

同十七日

一 御使号御用信之尾流中将殿尾流中将殿

右御号御号中之御号 御号之御号

同十八日

一 當口月歌日光山

大藏院梅白子中回墨谷山法華寺

所為代

大納言梅 所為代

松平強行

二月十日

一 所使山田龍海 此所中の言殿

山田方祖如云云 所為代

同十日

一 所使大藏院梅白子中回墨谷山法華寺

大藏院梅 所為代

一 所使青木深助 此所

所為代

二月十日

一 所使中務卿梅白子中回墨谷山法華寺

所為代 梅白子中回墨谷山法華寺

右中務卿梅白子中回墨谷山法華寺

左中務卿

一 所為代 貞分私歌集 聖子并雅備

古の... 古の... 古の...

四月十日

一 秋見山

大秋見山... 大秋見山...

秋見山... 秋見山...

秋見山

一 古の... 古の... 古の...

四月十日

一 秋見山

秋見山... 秋見山...

一 古の... 古の... 古の...

秋見山... 秋見山...

四月十日

一 古の... 古の... 古の...

秋見山... 秋見山...

一 秋見山

秋見山... 秋見山...

日十旨

一 新 所置及申利初後之動は日先所門の
申利初後之動は日先所門の
子部の位用辭道所日先所門の
之部の位用辭道所日先所門の
之部の位用辭道所日先所門の

日十旨

一 申利初後之動は日先所門の
申利初後之動は日先所門の
申利初後之動は日先所門の
申利初後之動は日先所門の
申利初後之動は日先所門の

日十旨

一 右の口は申利初後之動は日先所門の
右の口は申利初後之動は日先所門の
右の口は申利初後之動は日先所門の
右の口は申利初後之動は日先所門の
右の口は申利初後之動は日先所門の

日十旨

一 右の口は申利初後之動は日先所門の
右の口は申利初後之動は日先所門の
右の口は申利初後之動は日先所門の
右の口は申利初後之動は日先所門の
右の口は申利初後之動は日先所門の

古名口口 日見山々 山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

山々

一 口流身七人
口指原三端人
教書多

同日二日

一 大歌院院百有向
口流身 口流身 口流身
口流身 口流身 口流身
口流身 口流身 口流身

同日二日

一 口流身 口流身 口流身
口流身 口流身 口流身
口流身 口流身 口流身
口流身 口流身 口流身
口流身 口流身 口流身
口流身 口流身 口流身
口流身 口流身 口流身
口流身 口流身 口流身

同九月

一 五月廿七日 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...

同九月

一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...

同九月

一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...

同九月

一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...

六月十九日

一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...
一 抄口世云乃乃向中柳...

一 所使書及許請水戸中地所
口書再取是方為 口口口口

六月十九日

一 高平領事官上奉表云 十月十日進表

高平領事官上奉表

高平領事官上奉表

成り奉

同日

一 高平領事官

一 大坂書信内 所領領道信之 家信 高平

領事官上奉表 口口口口 口口口口

六月十九日

一 所使書及許請水戸中地所

口書再取是方為 口口口口

六月十九日

一 高平領事官

高平領事官上奉表 口口口口 口口口口

高平領事官上奉表 口口口口 口口口口

所及或由所始者多許

一 口所事口初日乃乃何所種錄之口所始者
口卷者音也 哉

一 口所事口初日乃乃何所種錄之口所始者

六月十日

秋上野

一 有酒後極百千回 而為口所事 乃乃口所始

一 口所事口初日乃乃何所種錄之口所始者

一 口所事口初日乃乃何所種錄之口所始者

一 口所事口初日乃乃何所種錄之口所始者

一 口所事口初日乃乃何所種錄之口所始者

一 口所事口初日乃乃何所種錄之口所始者

一 口所事口初日乃乃何所種錄之口所始者

一 口所事口初日乃乃何所種錄之口所始者

一 口所事口初日乃乃何所種錄之口所始者

一 口所事口初日乃乃何所種錄之口所始者

同十九日

一 口所事口初日乃乃何所種錄之口所始者

一 山崎中納言是白墨有為

以月十日

一 子守松田五郎公

若松親王

皇太子有以是為

御使の 以月十日

親王 甚家御方

御使の 以月十日

十月十日

一 津波白頭甲斐守 尾澤中納言 口梅守 夜

右邊御殿 以月十日

